

刊行にあたって

この本は、皆さんが歯科臨床において感じているであろう多くの痛みの疑問に答えることを目的に編集されました。この本の読み方は、最初から読み進めるのではなく、痛みで困ったときにその問題点が一番近い項目を開いてください。きっと、あなたの疑問に答えるヒントが見つかると思います。

序章では、最近の痛み理解の進歩を元に、歯科における痛みの捉え方のあるべき姿を示しました。そして、痛み臨床において最も重要な診断手順を現在、医療の世界で普及している臨床診断推論という手法で説明しました。

第I章は、う蝕治療、エンド治療にかかわる臨床的疑問に対する解決策を示しました。エンド専門医の先生方には、一步踏み込んだ世界標準の解決策を書いていただきました。その内容の多くは診断に関することです。修復治療に関しても同様に鑑別診断の重要性が強調されています。そして、歯痛の最大の話題である非歯原性歯痛の診断ポイントを網羅しました。

第II章は、非歯原性疼痛、歯科で扱う歯に関係しない痛みに関する解説と臨床的疑問への解決策を示しました。顎関節症、頭痛など歯科臨床に密接にかかわる痛みの疑問に答えました。

第III章は、抜髄後の不快症状に始まり、心気症による舌痛症など治療に難渋するさまざまな痛みの治療指針となるアドバイス、さらに、慢性痛における破局的思考など口腔顔面痛の目で見えた痛みに関する最新情報を示しました。

第IV章は、口腔顔面痛のトピックスとして、神経障害性疼痛に関してさまざまな観点から解説し、神経損傷の予防法としてCoronectomyの紹介、局所麻酔の重要性を示しました。

最後に第V章として、痛みの基本を整理することを目的に痛みの分類、異所性疼痛などの説明と最近の薬物療法の基本を解説してあります。

この本の校正中に平成25年度の歯科医師国家試験に神経障害性疼痛に関する問題がわが国で初めて出題されたことを知りました。学生さんには覚えなければならないことを増やしてしまいましたが、現代の歯科臨床において、すべての歯科医師に必須な知識であると思います。

著者の皆さんには編集者の求めた書き難いテーマにしっかり答えていただきありがとうございました。そして、読者の皆さんには、著者達の日常臨床、そして研究における洞察力を想像し、その結実である解説を患者さんの痛みの解決に役立てていただきたいと思います。

2014年3月 和嶋浩一